

④AB 間について

平成 21 年春季、夏季ともに、深度 10m、20m では汚染は見られない。深度 30m は、春季・夏季ともにこれまでの傾向と同様で、AB 間で帯状に連続して分布している。平成 21 年春季において、最も濃度が高いのは、AB 間の中央よりやや B 地区寄りの No.174 の 0.069mg-As/L (前回 0.029mg-As/L) である。平成 21 年夏季では、AB 間のほぼ中央に位置する No.176 で、それぞれ 0.041mg-As/L (春季 0.021mg-As/L) である。

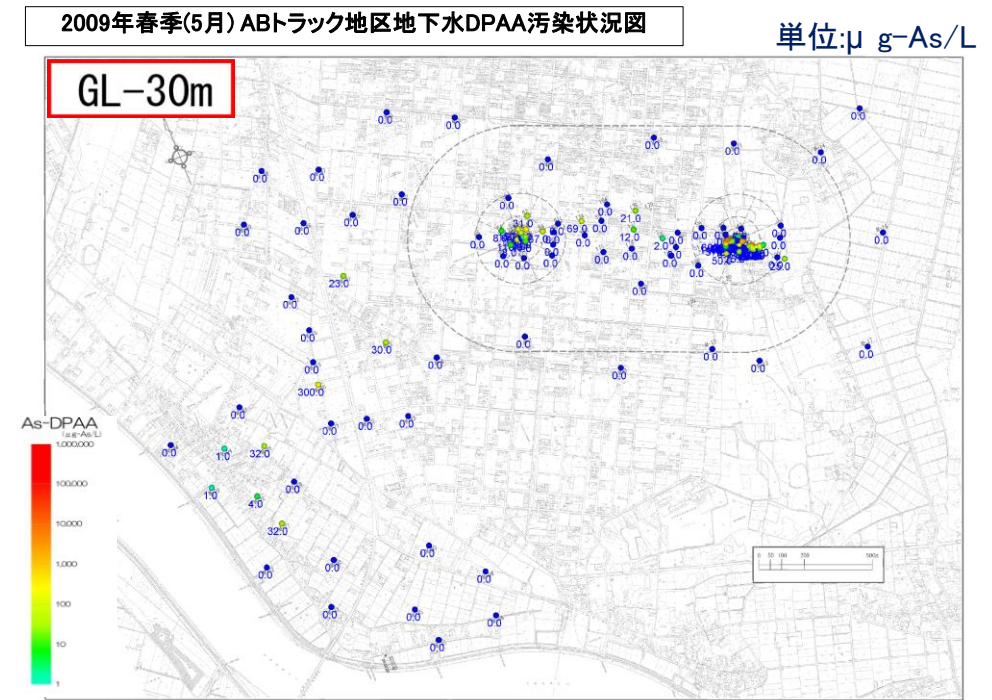
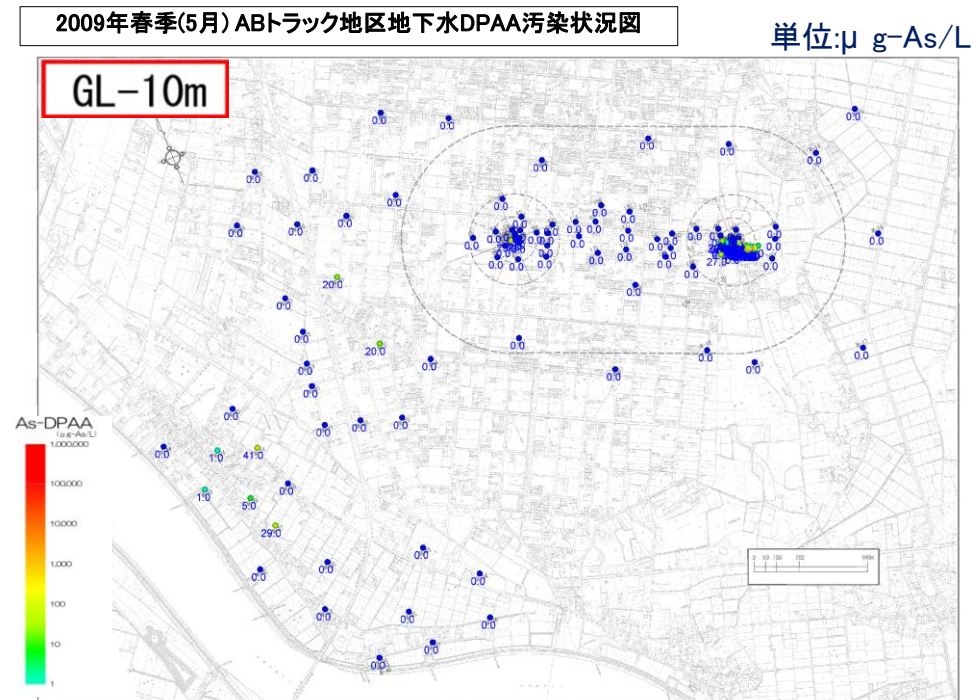
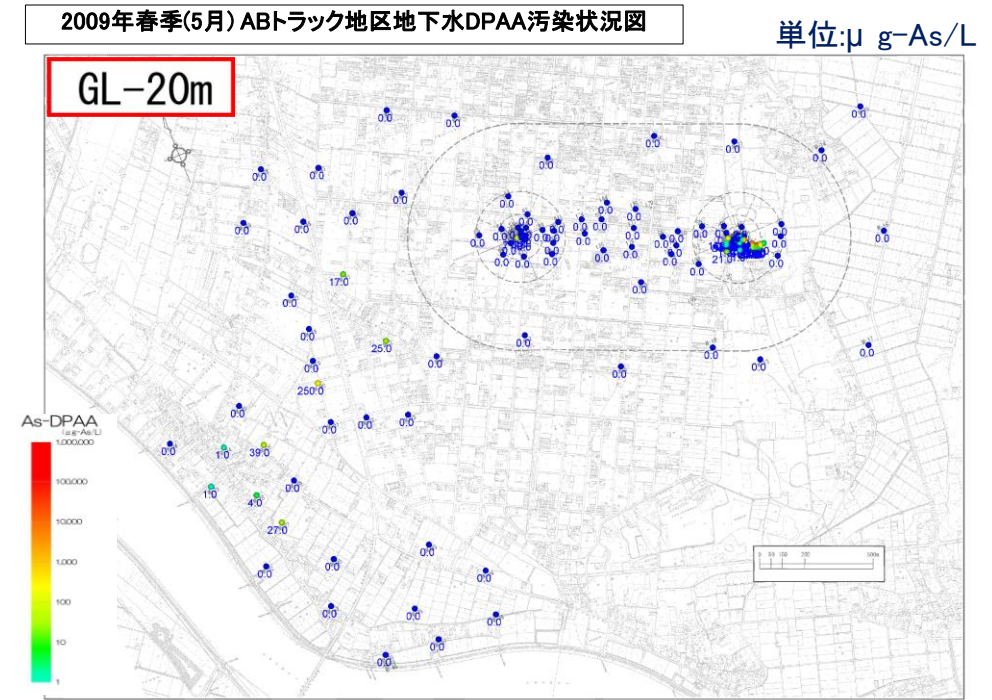
⑤AB トラックの外縁部について

最も高濃度を示すのは、これまでも比較的高濃度の汚染が確認され続けている M-20 であり、深度 30m で春季 0.3mg-As/L、夏季 0.31mg-As/L (冬季 0.31mg-As/L) と、安定した濃度で検出され続けている。

常陸利根川に近い地域では、M-20 の下流域と考えられる M-24、M-25、M-26、M-27、M-28、M-29、M-32、で低濃度の汚染が確認され、M-25 は上昇傾向が顕著であり、平成 21 年夏季において深度 30m で 0.044mg-As/L となっている。M-27 もやや濃度変動はあるもの長期的には上昇傾向にある。

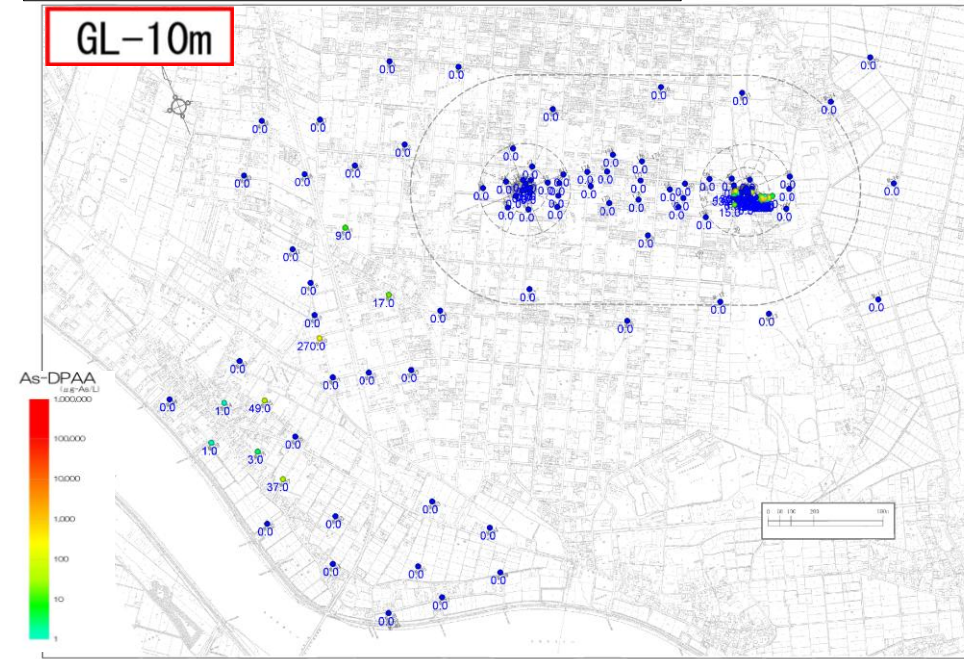
M-20 の北側の M-19 では、平成 21 年冬季において深度 30m で 0.089mg-As/L と濃度上昇したが春季 ND、夏季 0.002mg-As/L となっている。

AB トラックの西地域の M-41 では、前回に引き続き、0.009~0.013mg-As/L が全深度で確認されているが、濃度は低下傾向にある。設置直後の 2008 年夏季分析において汚染が確認された M-46 は、全深度で ND であった。



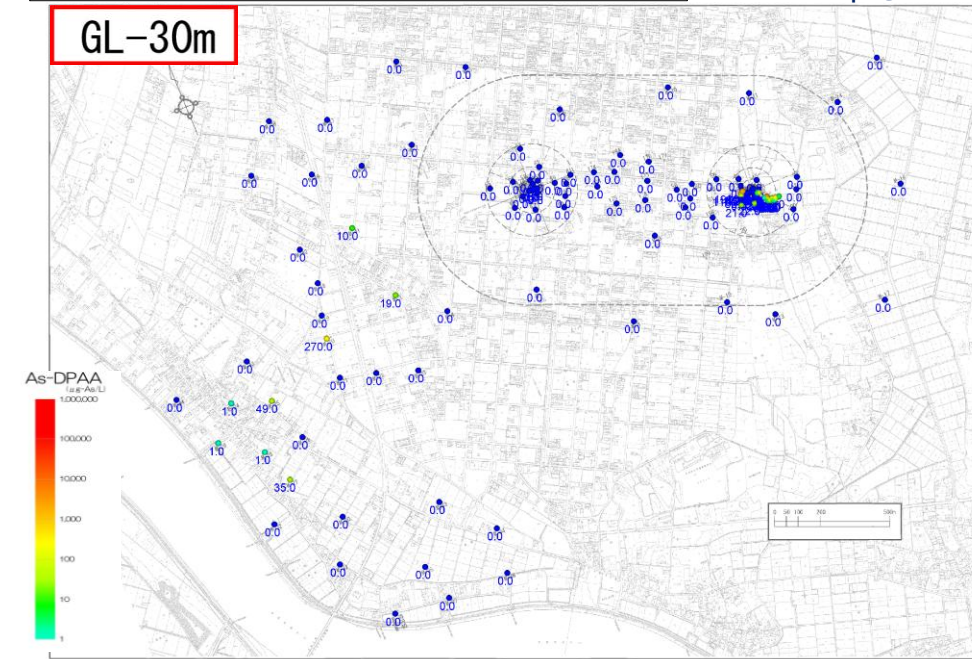
2009年夏季(8月) ABトラック地区地下水DPAA汚染状況図

単位: μ g-As/L



2009年夏季(8月) ABトラック地区地下水DPAA汚染状況図

単位: μ g-As/L



2009年夏季(8月) ABトラック地区地下水DPAA汚染状況図

単位: μ g-As/L

